

「深夜子連れ飲食の制限」に

反対？

- 子どもを預けられない人もいる。
- 共働きで忙しく、食事を作る暇がない。
- 子どもを置いて外出する親が出てくるかも。
- 家族のコミュニケーションがとれていい。



■問題だとは思いますが
制限は必要ないという意見も。



- 親族の集まりなど、特別な日は深夜までいても仕方ない。
- 標語やポスターを作成するなど「宣言」で良い。
- 店側に時間になったら声掛けや音楽を流すなど協力をお願いする。
- お酒が置いていない飲食店ならよいのでは。

子どもの事を一番に考えると、「深夜の子連れ飲食」には反対だが、それぞれの家庭の事情もあり、条例などで規制するのはどうなのか？という意見も多くみられました。

事業者は制限することに**難色**...

- 店側からは声をかけにくい。午後10時までなら良いと思う。
- 条例化には反対。学校からの啓発活動などで、親側のモラルの向上を働きかけたほうが良い。
- 子どもを置いて出かけるより一緒に連れていったほうが良い。

居酒屋などの事業者からは、午後10時以降になると声掛けしたこともあるが、外食は日頃とちがう親とのコミュニケーションの場でもあるため、条例などで規制することには疑問だという声もありました。



事業所向け円卓会議(9月30日)

「深夜子連れ飲食の制限」に

賛成？

- タバコの副流煙が心配。
- 睡眠不足で生活リズムが乱れる。
- 高カロリー、塩分過多な食事が多く、健康に悪影響。
- 酔った人の言動や姿を見せたくない。



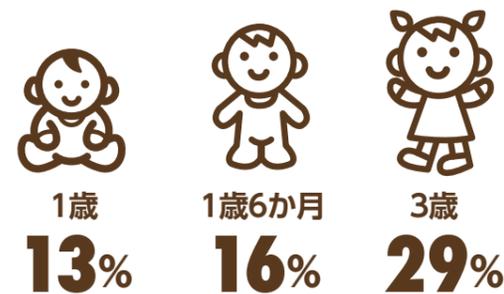
円卓会議

～円卓会議で出たみんなの意見～
円卓会議に参加した浦添市内在住の153人と8事業所に「深夜の子連れ飲食」を制限することについてどう考えているか討論してもらいました。興味深いご意見が集まったので、その一部を紹介します。

■3歳児の約30%が**寝不足傾向**

全国の子ども約10万人を対象にした環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」では、就寝時間が午後10時以降に就寝する1歳児は13%、1歳6か月では16%、3歳児では29%となっています。共働き家庭が増えて親の帰宅時間が遅くなっていることも、子どもの就寝時間が遅くなっている原因の一つとされています。

午後10時以降に就寝する子どもの割合



3歳児の場合、推奨される睡眠時間は**10～13時間**と言われており、睡眠が短いことによる影響が懸念されています。

参考:環境省 エコチル調査 5周年シンポジウム資料(2015年11月20日時点)

■夜型社会と**生活リズム**

生活リズムを整えることで、学力だけではなく、体力・運動能力においても良い結果として出ていると文部科学省の調査でも明らかになっています。

沖縄は夜遅くまで店舗が営業している事も多く、出歩く人も多いため「夜型社会」と言われています。子どもたちの健やかな成長のために、家庭での過ごし方や生活習慣などを見つめなおす必要があるのかもしれない。

子どもの生活リズム1・2・3・4

